あかそこひ

平野正喜（ひらのまさき）・作

改題初版
2015・12・13

登場人物

博士（54）男。光子学研究所教授。権威だが反主流。

助手（30）男。博士の唯一の部下。志保に気がある。

志保（24）博士の一人娘。幼いころに母を亡くした。

時と場所

2015年12月13日（日）

夕暮れの光子学研究所の1室。

机と椅子2脚（うち1脚はリクライニングしてベッド代わりになる）。

机上に光子望遠鏡の端末装置（パソコンに適当な黒い筒をつけたもので良い）。

白衣姿の博士と助手がいる。

博士は右眼で光子望遠鏡の端末装置を覗いている。

助手は携帯電話に出ている。

助手（電話に向かって）ですから、ベテルギウスです！オリオン座の。そう！冬空に見える赤い星です。それが昨日、12日からから倍の大きさになっていると、世界中が気づいてしまったんです。特にアジアは雲が無かったので。で、ネットに画像が上がって、あっという間に世界中に。そうです、寿命なんですよ、あの星の。

え？そんなことを光子学研究所に言われても困りますよ！（慇懃に）ええ、どうぞ。

博士（つぶやくように）距離は650光年、光の速さで6500年かかる。2015年の650年前とすると1365年か。我々ははるか過去、室町時代、足利尊氏が没した頃のベテルギウスを見ているわけだ。6500年の光の旅。ロマンチックじゃないかね。

助手（電話を切って）博士。そんな呑気なことを言ってる場合じゃないですよ。誰からだと思います？

博士（質問に答えずに）つまり、この膨張は650年前に起こったことだ。慌てても仕方あるまい。

助手文部科学大臣からですよ。「光子望遠鏡でなんとできんのか？」とか言い出しちゃって。

博士（機械を指さして）これで、かい？

助手ええ、光子カビームとかを発射して巨星を粉砕できるとでも思っているんですかねぇ。昭和のアニメじゃあるまいし。

博士やれやれ。

助手ヨーロッパは雨だったので、肉眼では見えなかったそうですが、こちらが昼の間にロンドンから調べたらすでに4倍になっていたそうです。アメリカ東海岸も雲が多くて助かりましたが、晴れてた西海岸は山火事が続いていて、燃える山から真っ赤な巨星が上がってきたと大騒ぎです。これがネットで拡散するのもあっという間でしょう。

博士　そろそろ日本でも上がってくる。雨で良かったな。

助手　12月だし、雪になるかな。ですから、ネットでもう。

志保　お父さん、一回帰るね。

志保が入口から白衣姿で入ってくる。

白衣を脱ぎながら。

博士　ああ、お疲れさん。

志保　大変なことになりそうだから、泊まり込みの準備してくる。

博士　ああ、頼む。

博士は光子望遠鏡から目を離して一瞥するが、すぐに光子望遠鏡にもどし、

志保がヤレヤレというポーズで出ていく。

助手は二コ二コと手を振ってから、厳しい顔に戻って、

博士　爆発するとお考えですか？

助手　しただろうね。星の寿命の最後の定めだ。大量のガンマ線を放射しただろう。地球にもガンマ線が届くんじゃないかな。

博士　え？最近の研究では、ベテルギウスの自転軸は地球に対して20度ずれているので大丈夫だと。

助手　ガンマ線の放出は星の自転軸から2度の範囲内、か。

博士　そ、そんな。まあ、でも、ガンマ線だけなら。

助手　ホントにそうかな？

博士　ホントにそうかな？

助手　え？

博士　しかも、爆発光が来るかもしれん、いや、すでに近くまで来ているかな？

助手　爆発光、ですか？

博士　爆発のエネルギーを持つ光線だよ。ほれ、さっきから冥王星が見つからん。

助手　め、冥王星が？

博士

冥王星から地球までは光でざっと5時間。5時間前にやられたか。ということは、冥王星からの光がこに届くまで5時間、冥王星を葬った爆発光も同じ速度だとすると…、ぐあああ！

助手

は、博士！

博士

目が、目が！

暗転。

明るくなると、リクライニングした椅子に博士が寝かされている。

助手

博士、目を覚まされましたか

博士

ああ、ああ、右眼が！右眼が開かない！

助手

残念ですが、強烈なガンマ線によるケガで…

博士

な、なんだと。ううむ。あ、いかん、こんなことやってる場合じゃない！何時間経った？ベテルギウス

助手

はどうなった？

助手

半日です。想定をはるかに超える強さのガンマ線で光子望遠鏡が破壊されてしまいましたので観測でき

博士

ません。

博士

何と言うことだ！では…

助手

はい、すぐに国立天文台の電子望遠鏡に応援を頼みましたが、そちらもダメでした。あまりに強いガンマ線の為、世界中で精密機械の動作不良が発生して

博士

います。

助手

ないのか？

博士

あの時ベテルギウスの方を向いていた地域だけでは

助手

はい、裏側だったイギリスのグリニッジにも問合せましたが同じ答えでした。

博士

つまり、目視しかできないということか！起こして

助手

くれ！

助手

はい。

博士

志保か、準備はどうした？

助手

え？どこにですか、志保さんはもう…

博士

方を見て、

助手が博士を起こすと、博士は出入口の

博士　どうした、入っておいで、なぜ返事をしない？

助手　博士、落ち着いてください。実は志保さんはガンマ線による交通事故に巻き込まれて…（泣く）

博士　ぐったりと崩れる。

博士　死んだのか。

助手　（泣き止んで）行方不明ですが、電車と車の多重衝突に巻き込まれたと。一帯が火事になり、まだ燃えています。（痛恨の思いをこめて）絶望的です。

博士　信じられん、出て行った時の姿そのままではっきり見えるというのか。

助手　見えるる。まさか、青そこひが進んでるので、幻でも見えるというのか。

助手　え、先生、緑内障ですか！そ、それでわかりました。

博士　何がわかったんだね。

助手　（いきいきと）私は以前、眼科医を目指していました

博士　ので、緑内障は専門の一つです。

博士　（つられていきいきと）じゃあ、教えてくれ。なぜ私には半日前の志保の姿が見えるのだ？

助手　それは視野補完です。

博士　補完？おぎなうという意味か？

助手　ええ。緑内障で視野が奪われると、人間の脳はその

博士　ことによるデメリットを解消しようとします。通常は両眼の視野の重ね合わせを用いて、片目が見えなくなった部分をもう片方の目で見て、得られた画像を奪われた視野に貼り込んで補完してくれるんです。

博士　つまり、視野が奪われたことは本人にはわからない

助手　というのか？

博士　はい。その通りです。自動的に行われますので。

博士　うーむ、補完プログラムが仕込まれていて勝手に動き出すということなのだな。しかし、それとこれは…。

助手　通常なら、人間は1つのものを両目で同時に見ます。ですから、補完に用いられる画像はコンマ数秒前に

博士　それはわかる、だが…。

助手　もう一方の目で見たものです。

博士　しかし博士の右眼は昨日からずっと光子望遠鏡を見てました。

博士　あ！残像か？

助手　そうです。いわば残像です。博士が最後に見た志保さんの姿の映像が、緑内障で失われた視野を補完したんです。

博士　しかし、それは次に見た景色によって上書きされてしまうはず…それが…ないのか！

助手　ええ、その通りです。ずっと光子望遠鏡を見ていた博士の右眼は失明し補完に使える情報がありません。

博士　よって、直前に得られた、お嬢さんの姿を含む画像が使われたのです。

博士　やっとわかったよ。ありがとう。それにしても（笑い出す）

助手　何がおかしんですか、この非常事態に（笑いながら）

博士　まあ、この非常事態に緑内障と残像についての理論で盛り上がってるのは。

博士　普通に考えたらおかしなことだろうな（なおも笑いながら）

助手　昔流行った「博士と助手」のコントみたいですよね。

博士　（泣き笑いに代わって）お嬢さんは行方知れずなのに。

博士　（少し笑いながら）いいじゃないか。もうすぐ我々も行くのだから。

助手　（泣き納めて）そうですね。

博士　（熱が冷めたように冷静に）来たか。

助手　（事態を悟った表情になって冷静に）見てきます。

博士　（入口に向かって叫ぶ）大丈夫か？

助手　大きな音。

博士　助手が出口から出た途端に何かが崩れる

助手　（冷静に）博士の予想通り爆発光です。ベテルギウス

博士　異音が聞こえてくる。

博士　助手が満身創痍の様子で這ってくる。白

博士　衣がボロボロになっている。

博士　（事態を悟った表情になって冷静に）見てきます。

助手　助手が出口から出た途端に何かが崩れる

からの爆発光が届いてしまいました。世界の全てが燃えているようです。私もダメ…そうで…す。

助手、力尽きる。

博士、天を仰ぐ。

博士

膨張開始から爆発光放出まで1日もなかったか。滅びが650年と半日の旅を経て訪れたというわけか。

しかし、私の目には志保が見える。左眼の失われた視野が最後に見た半日前の平和な風景に補完されている。なんて幸せなのだろう。ありがとう…

すべてが崩れる轟音・暗転・幕（了）

参考資料と注記

・NHK解説委員室　解説アーカイブス「くらし☆解説『爆発間近？！ベテルギウス』水野倫之」2014年5月1日放送

※ベテルギウスからのガンマ線の放射は天文学的研究が進められていますが、本編で用いている「爆発光」はフィクションです。天文学的な根拠はありません。また、光子望遠鏡、光子学研究所もフィクションです。なお、光子カビームは永井豪さん作のロボット漫画「マジンガーZ」に登場する想像上の兵器です。

・緑内障.com「緑内障の症状」http://aosokohi.com/syoujou.shtm　ほか

※「緑内障で欠損した視野が記憶や想像により自動補完される」ことは既知の事実ですが、本編で用いている「緑内障で欠損した視野が記憶により補完され、もう片眼の失明により固定する」という部分はフィクションです。医学的な根拠はありません。

※タイトルの「あかそこひ」はオリジナルです。「そこひ」は緑内障、白内障などの眼の疾病の俗称で、緑内障は「あおそこひ」「くろそこひ（白内障）」ともいいます。「しろそこひ（白内障）」「くろそこひ（黒内障）」はありますが、「あかそこひ」と呼ばれる疾病はありません。

本作の著作権は平野正喜にあります。

本作は有料ですが、上演・放送・出版・転載されない場合は、代金はいただきません。

上演・放送・出版・転載される場合の料金は、ランドッグ・オーグ平野正喜事務所のウェブページをご覧ください。あるいは、日本劇作家協会にお問合せください。代金の支払いにより、脚本の使用を利用者に対し非専属的に許諾します。